

大学入試志願者本人記載書類の作成における文章生成 AI 利用への印象 —高校教員への質問紙調査から—

○加美山若奈（東北大学大学院）

倉元直樹（東北大学）

キーワード：大学入試，志願者本人記載書類，文章生成 AI

問題と目的

2023 年度大学入学者選抜において，短期大学等を除く大学全体の入学者のうち一般選抜を経た者の割合は 47.9% となり，半数を下回っている（文部科学省，2023a）。この他の主な選抜区分としては，学校推薦型並びに総合型選抜が挙げられ，特に後者では「入学志願者本人の記載する資料」として活動報告書，大学入学希望理由書及び学修計画書等を積極的に活用することが推奨されている（文部科学省，2023b）。また，学校推薦型選抜においても志願者本人記載書類が課されることが多く，結果的に現在の日本の大学入学者選抜では志願者本人記載書類が必要とされることが多い。その一方で，文章生成 AI の普及が進み，書類を用いた選抜の公平さが損なわれるのではないかと懸念も生じ始めている。そこで，本研究では生徒の書類作成を指導する高校教員を対象に質問紙調査を行い，文章生成 AI の利用により書類の出来映えがどの程度影響を受けると考えられているのかを明らかにする。選抜制度のあり方に関する議論に資するものとしたい。

方 法

調査対象者

東北 6 県に所在する全ての高等学校（中等教育学校の高等部を含む）に加え，これと同数になるようランダムサンプリングした東北以外の地方の高等学校を合わせて 878 校に調査票を送付し，所属する教員に回答を求めた。なお，1 校あたりの回答者数は制限しなかった。本研究で扱う項目への有効回答数は 220 であった。

調査時期及び調査方法

2023 年 8 月上旬に調査票を郵送した。回答方法は，メール・フォームの利用を標準とし，回答記入済みの調査票を郵送することも可とした。回答期限は 10 月 2 日とした。

調査内容

総合型及び学校推薦型選抜の出願指導体制や志願者本人記載書類の特徴別に書きづらさ評価に関し回答を求めた「大学入学者選抜総合型・学校推薦型選抜における志願者本人記載書類に関する調査」より，文章生成 AI に関する質問（17）から（21）を用いた。

結果と考察

志願者本人記載書類を用いた選抜に文章生成 AI が与える影響に関して尋ねた質問（20）に含まれる 12 項目に対して探索的因子分析を行い（主因子法，プロマックス回転），カイザー・メッサー・ケルマン基準により 3 因子を抽出した。第 1 因子を「選抜への影響懸念」（値が低いほど懸念が高い），第 2 因子を「質の高い書類作成」（値が低いほど質の高い書類作成への期待が高い），第 3 因子を「制度的対応の必要」（値が低いほど生成 AI 利用による影響を排しようとする傾向が高い）と命名し，他の質問項目や回答者の勤務校の進学実績（4 区分）との相関関係を分析した。なお，相関関係の指標としてスピアマンの順位相関係数を用いた。

回答者の文章生成 AI 利用経験の有無を尋ねた質問（17）を先述の 3 因子との相関係数を Table 1，志願者本人記載書

類について指導する教員と生徒本人の文章生成 AI 利用可否について尋ねた質問（18）並びに（19）との相関係数を Table 2 に示す。生成 AI の利用経験がある回答者のほうが，一般的に「選抜への影響懸念は少ない」として，志願者本人記載書類の作成において補助的に生成 AI を利用することを可とする傾向が見られた。

さらに，回答者の勤務校の進学実績との相関を Table 3 に示す。回答者の勤務校の進学実績が低いほど文章生成 AI で質の高い書類が作れると感じるとともに，選抜における書類評価への公平さに懸念を持つ傾向が見られた。生成 AI が平均的な内容の文章をアウトプットすること考えると，文章表現が不得手な生徒の多い学校では表現力等が底上げされると感じられるために，このような結果になったと推察される。

Table 1

文章生成 AI 利用経験と各因子の相関係数

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
生成 AI 利用経験	.267**	.102	.051

** $p < .01$

注）生成 AI 利用経験は「無」を 0，「有」を 1 とした。

Table 2

本人記載書類への文章生成 AI 利用可否と各因子の相関係数

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
教員等利用可否	-.283**	.209**	-.004
生徒利用可否	-.348**	.128	-.011

** $p < .01$

注）利用可否は「全般利用可」を 1，「補助的利用可」を 2，「利用不可」を 3 とした。

Table 3

回答者勤務校の進学実績と各因子の相関係数

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
進学実績	-.174*	-.247**	-.014

* $p < .05$ ** $p < .01$

注）進学実績は 4 区分で，実績が最も高い区分の数値 1 に始まり，数値 4 までを割り振った。

注）異動 2 年以内で，前任校を想定し指導体制を答えた回答者は分析から除外したため，この Table のみ $n=172$ である。

引用文献

- 文部科学省（2003a）. 令和 5 年 11 月 29 日報道発表 令和 5 年度国公私立大学入学者選抜実施状況. https://www.mext.go.jp/content/20231129-mxt_daigakuc02-000032825_01.pdf
- 文部科学省（2023b）. 令和 6 年度大学入学者選抜実施要項 令和 5 年 6 月 2 日付け 5 文科高第 369 号文部科学省高等教育局長通知. https://www.mext.go.jp/content/20230719-mxt_daigakuc02-000005144_10.pdf

付 記

本稿は JSPS 科研費 JP21H04409 の助成による研究成果の一部である。